

患者さんへ

「頸椎椎間関節脱臼に対する急性期非観血的整復術の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることができる場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を提示して適切な同意を得ること、それが困難な場合には、その情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	<p>2006年4月～2022年1月の期間で、当院脳神経外科にて非観血的頭蓋直達牽引整復術※を受けられた頸椎椎間関節脱臼の方。</p> <p>※非観血的頭蓋直達牽引整復術：頸椎（首の骨）の関節が脱臼した場合、その関節が本来の場所からずれてロックした状態となり戻らなくなる場合があります。それを正しい場所に戻す方法には、最も体に負担が軽く行える、非観血的頭蓋直達牽引整復術があります。頭部に弧状の金具を局所麻酔下にて取り付け、これにロープを括り付け、重りで引っ張り首をのばす方法となります。その際、レントゲンを経時的に撮影し、徐々に重りを追加しながら注意深く行います。頸椎を脱臼してしまった場合、最終的に手術治療を行う必要がありますが、この牽引術により脱臼が整復された場合、手術で必要な作業が減ったり、手術の選択の幅が広がったりするなど良い効果があります。また、頸椎の中をとおる、頸髄の圧迫を減らせる場合があり、この非観血的頭蓋直達牽引整復術は医学的に勧められている方法です。</p>
2 研究目的・方法	<p>急性期非観血的整復術は頸椎椎間関節脱臼の治療として、速やかな神経除圧とその後の術式決定において重要です。しかし、その整復術には定まった方法が無く、各施設に委ねられており、合併症も問題となっているのが実情です。当院における頸椎椎間関節脱臼例に対する急性期非観血的整復術について、方法、成績、合併症を調査し、報告します。</p> <p>研究の期間：施設院長許可後～2022年10月</p>
3 情報の利用拒否	<p>同意いただいた後であっても、いつでも撤回できます。情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>
4 研究に用いる情報の種類	<p>年齢、性別、脱臼の部位、脱臼部位の骨折の有無、牽引整復の結果、牽引時の重量、脱臼椎体の偏位の程度、牽引による合併症 等</p>
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 渡辺剛史（研究責任者） 湘南鎌倉総合病院 脳神経外科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号：0467-46-1717</p>